

令和2年産米のJA柏崎の1等級比率は、コシヒカリで32.2%、こしいぶきでは93.3%でした。また、収量は平年並となりました（11月19日現在CE含む）。

令和3年産米は、重点技術対策の実践と登熟期間中の高温・フェーン等に備えをし、異常気象に対応できる丈夫な稲づくりをしましょう。

1 令和2年度の気象および水稻生育経過の特徴

- 6月下旬～7月上旬の高夜温・・・草丈急伸長で長草型の稲姿
- 7月の低温・少照・多雨・・・出穂前デンプン蓄積量の減少、中干し後の土壌の軟弱化
コシヒカリの出穂予想2日早まるから平年並の予想へ
- 梅雨明け以降の猛暑・・・登熟初中期の高温による白未熟粒と胴割粒の発生誘発
- 8月中旬～9月上旬の高夜温・少雨・・・籾へのデンプン転流・蓄積不良、呼吸によるデンプン消耗
- 8月下旬～9月の断続的な降雨・・・倒伏拡大、ほ場軟弱化、刈遅れによる胴割粒等の増加
- 度重なる台風によるフェーン・・・稲体活力の低下、登熟阻害(8/10～14、8/27～28、9/3、9/6～8)

2 令和2年度の品質・作柄概況について

・令和2年度米検査実績（11月19日時点 共同乾燥施設を含む）

品種名	等級及び比率			
	1等	2等	3等	規格外
コシヒカリ	32.2%	65.6%	1.7%	0.5%
こしいぶき	93.3%	6.1%	0.2%	0.4%
葉月みのり	98.1%	1.3%	0.0%	0.6%
その他うるち (ゆきん子舞等)	88.5%	9.7%	1.4%	0.4%
こがねもち	14.3%	71.0%	14.7%	0.1%
わたぼうし	36.9%	63.1%	0.0%	0.0%

・主要品種 格落ち理由

品種名	1位	2位	3位
コシヒカリ	除青未熟	背白	心白粒
こしいぶき	除青未熟	青未熟	背白

コシヒカリの品質低下要因

- ①高温障害
稲体の活力が低下し除青未熟、背白粒の増加
- ②籾数過多
登熟が悪化し除青未熟、心白粒の増加
- ③倒伏
登熟阻害、刈遅れにより除青未熟粒の増加

3 次年度に向けた品種ごとの栽培技術対策

【各品種共通の栽培技術対策】

○深耕（作土深 15 cmの確保を目指す：徐々に進める）

柏崎の平均作土深は 11.7 cmと浅い傾向にあります。作土の浅いほ場は根域が狭く、根域を広げることで肥料の持続や高温登熟の回避にもつながり気象変動に強くなります。

○堆肥・土づくり資材の施用

近年、登熟期の高温により品質低下しています。土づくりマップ（R2.9配布）を参考に堆肥の施用や、不足分の土づくり資材の施用で高品質米生産を目指しましょう。

資材については、裏面を参照してください。

○稲わらの秋すき込み（5 cm以内の浅うち）

当管内のほ場は重粘度質の土壌が多く、春先のワキ（硫化水素）の発生が多いため、収穫後の早い時期にすき込みを行い、有機物の分解を促すことが重要です。また、浅くすき込むことで分解を早めることができます。

『高品質米を安定生産するために土づくりを積極的に行いましょう！』

(1) コシヒカリ：目標収量 530 kg (8.8 俵)

○早めの中干し

柏崎管内のほ場の多くは過剰生育になりやすいです。過剰生育により籾数が 28,000 粒/m²よりも多くなると心白粒が増加する傾向にあります。適正な生育の確保のために、特に、生育過剰になりやすい地域は、遅れずに中干しを開始しましょう。

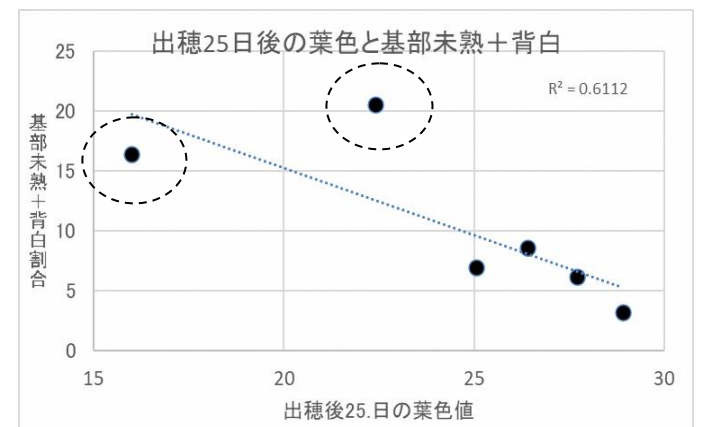
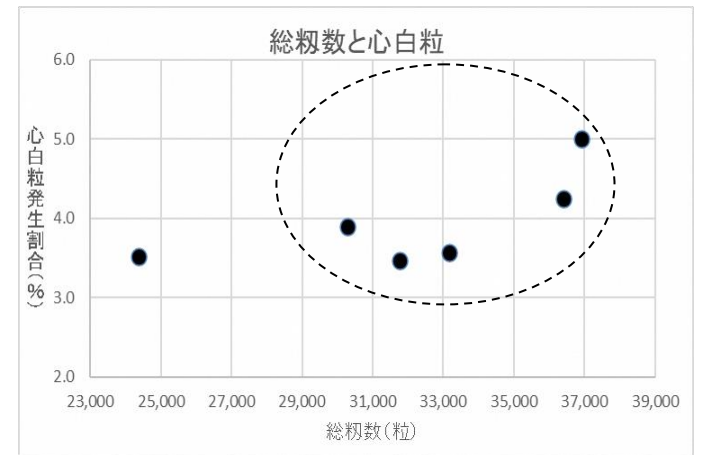
中干し時期に降雨が予想される場合は、長期予報を確認した上で、早めに中干ししましょう。

○後期栄養の維持（確実な穂肥、水管理）

出穂後 25 日の葉色が指標値（SPAD 値 25）を下回ると基部未熟や、背白粒割合が高まる傾向にあります。

生育診断を必ず実施して、適期に適量の穂肥を実施しましょう。

中干し終了後は、こまめな水管理で後期栄養を維持しましょう。



(2) こしいぶき：目標収量 600 kg (10 俵)

○品種特性に合わせた肥培管理

当管内ではこしいぶきをコシヒカリと同様に栽培管理（栽植密度、施肥、中干し程度等）している方が多く見られます。特に、施肥設計で元肥・穂肥が不足傾向にあるので品種にあった肥培管理をしましょう。

また、栽植密度は 60 株/坪 で田植えをしましょう。

（施肥設計の例）

	資材名 (元肥)	使用量の目安 (kg/10a)	窒素量	資材名 (穂肥)	使用量の目安 (kg/10a)	窒素量
分施	国産化成肥料 14-14-14	25~30	3.5kg~ 4.2kg	穂肥 520 号	20	3 kg
元肥一発	JA 柏崎専用 ワンタッチ早生	30~40	4.5kg~ 6.0kg			

※地力に応じて窒素量を加減しましょう。

4 土づくり資材の使用例

JA 柏崎専用土づくり肥料

管内の土壌分析に基づき、「リン酸」「ケイ酸」「苦土」「腐植酸」をバランス良く配合した肥料です。

リン酸 8% ケイ酸 16% 苦土 3%
使用量 40~60 kg/10a

おぐに土づくり肥料

小国地域の土壌診断結果にもとづき「リン酸」「ケイ酸」「酸化鉄」を多く含んでいます。
リン酸 3.9% ケイ酸 17.5% 酸化鉄 13%
使用量 30 kg/10a

越後の輝きソイル米スター

低コストで 1 袋 15kg と散布しやすく、ケイ酸以外の成分も含まれているので継続的な土づくりにおすすめです。

リン酸 1% 加里 7% 苦土 2% ケイ酸 30%
使用量 30 kg/10a

みつパワー

ケイ酸、苦土による土づくり効果のほか、慢性的に不足しがちなマンガンを含むため、ごま葉枯れ病に役立ちます。

ケイ酸 25.1% 苦土 2.7% マンガン 10%
使用量 60~120 kg/10a

苦土重焼燐

柏崎管内ではリン酸が不足している圃場が多いので継続的な施用をして土壌改善を図りましょう。

リン酸 35% 苦土 5%
使用量 20~40 kg/10a

柏崎地域農業振興協議会

柏崎市、刈羽村、中越農業共済組合、柏崎農業協同組合、柏崎土地改良区
柏崎農業普及指導センター（柏崎地域振興局農業振興部）

【お問い合わせ先】

全地区共通

JA 柏崎営農指導課 21-2095
柏崎農業普及指導センター 21-6263

南部高田、中央柏崎地区

JA 南部高田支店 22-5165

東部田尻、北部西中通、高柳

JA 東部田尻支店 35-8188

西山、刈羽地区

JA 刈羽支店 45-2255